

「北岳バットレス 下部フランケ～D ガリー奥壁」

2018/9/22 ～ 9/24

椿尾・小林・松村

2017年度夏合宿にてルートミスにより敗退したルートに再チャレンジしてきた。初日は雨が降り、敗退の文字が過ぎたが天気が回復し最高のアルパインクライミングを最高の仲間とともに楽しめた。

行動

9/21 9:00 江坂駅出発

9/22

3:00 芦原駐車場着

3連休ということもあり沢山の車が停まっていた。何かの縁か昨年度と同じ場所に駐車できた。

7:00～7:40

乗り合いタクシーにて広河原へ。雨がポツポツ降っており、カッパを着て出発。登山客が多くて時折渋滞が発生する。時間は充分あるのでゆっくり登る。所々、登山道が沢みたくなっていた。アプローチシューズがゴアテックスではないため、濡れないように気を使いながら登る。



乗合タクシー待ち

10:15 二股着。東の方角はガスが切れて明るくなってきているが天気は回復しそうにない・・・。



11:00 D 沢到着。松村が沢を超える際に片足をドボン!!

しばし天気の回復をみるが変わらないためとりあえず第5支援尾根末端まで行くことにする。草についた雫で自分の靴もビショビショになってしまった。

11:40 第5支援尾根末端到着。もちろん岩は濡れているし雨は降り続けているので登ることはできない。予報では昼過ぎから天気は回復するはずなので体が冷えないようにツェルトを張って停滞することにする。ツェルトは雨風を防いで、改めて重要性を認識した。



14:30 頃 急に天気が回復しだす。15 時には快晴に変わっていた。天気の違いが面白い。



天気の回復を待つ松村



天気の回復を待つ松村

16:00 岩もそれほど難しそうではないので多少濡れているが登れそうである。予定どおり横断バンドまで行こうと打ち合わせし登り始める。トップはジャンケンで勝った松村。濡れているし残置もないので難しいクライミングだっただろうと思う。2P目は椿尾 その後、コンテで少し歩いたのち3P目小林のリードで横断バンドまで詰める。



1P目をリードする松村



3P目のルンゼをリードする小林

17:00 まだ明るいので明日登る下部フランケの 1P 目にロープを Fix しておくことにする。ルートを見るところ濡れているが登れそうである。椿尾の意地悪心で小林に登らせてやろうと嗾ける。案の定、登る気になってくれた。小林、軽身で 1P 目リード。果敢にも攻めたが岩の状態が悪く A0 で登る。



下部フランケ 1P 目を登る小林。

小林が登っている間にツエルトを張る準備を進める。おりてきた頃には辺りは真っ暗になっていた。

晩御飯時に、本日の晩御飯、明日の朝食、そして非常食が小林より配給される。丼にカレー飯、ラーメン。おまけに鰻が入っていた。



鰻丼にして食べる、
食事が済めばやることもなく、寝不足のため寝ることにする。

19:00 消灯

- ・ ・ ・眠れない。ツエルトを張った場所が悪く斜めになっているため窮屈である。しかも斜面の先は崖になっている。松村との陣取り合戦で夜は更けていった。朝は非常に寒く、シュラフカバーに裸足の松村は酷く辛そうだった。

9/23(日)

4:00 起床 第5支援尾根の末端にはすでに別パーティが到着し登る準備をしていた。

5:30 頃、日が昇り始め辺りが明るくなってきたので、登る準備を始める。

5:30 登攀開始

1P目は昨日と同様に小林が登り始める。ロープをFixしていたのでスピードははやい。松村、椿尾が登って終了。スラブがいやらしいルートだった。全装備背負っての登攀なのでアルパインスタイルで、A0を交えて登る。



1P を登る小林。

2P 椿尾 凹角から外に出てクラックを直上。外に出るときが難しい。



2P 目をフォローする小林。

3P 松村 下部フランケの核心？ルート

クサビハングを抜ける。チムニーを壁を使ってズリズリと這い上がり、ハングを乗越す。難しいところはなく、楽しいルートだった。

4P 小林 3P と同様にチムニーからハングを乗越す。



4P 目リードの小林。

5P 椿尾 次ピッチのトラバースルートの始点がもう少し上だったので、5メートル程登る。

ここで下部フランケは終了となる。真横で4尾根パーティがビレイをしている。なんだか不思議な感じがした。

6P 椿尾 D ガリー奥壁ルートへ繋げるトラバースルート。

トラバースが大の苦手としている椿尾、ビビリながらも動き出す。下りながらの移動となるため、怖さが倍増。しかし、足元がしっかりとしているため10m程進むと慣れてきたのか、楽しくなってきた。

40m 程の移動で D ガリーのルンゼに到着。



トラバースルートをリードする椿尾 とセカンドの小林

7P 松村 ルンゼから D ガリー取り付きまでの繋ぎのピッチ。階段状の壁を登る。最後は草付きで少々悪かった。

D ガリー取り付き到着。富士山がよく見えた。

しばし休憩する。時間はすでに10時。本来ならば、12時に山頂に到着し、16時には広河原に到着しバスにのり帰阪する予定であったが到底間に合いそうにないので諦める。計画に無理があったのだろうか。軽装だったら計画通りに行けたのだろうか。



D ガリー奥壁取り付きテラスで休憩。

8P 小林 次ピッチの三段ハング下まで登る。どんなルートだったか覚えていない。三段ハングまでのアプローチピッチだったと思う。

9P 椿尾 奥壁核心ピッチ 核心ピッチを登らせてもらえるなんて光栄である。出だしからハング部分を登る。ホールドを持って上がろうとするが体が上がらない。諦めてA0に切り替えて登る。2段目、3段目もカムを多用しながら登っていく。三段目のハングを超えたところで綺麗なフィンガークラックが出てくる。ハングで疲れた所にクラックとは、これには驚いた。手持ちのカムが運良く、0.3と0.5が残っていたのでカムをズラしながら登った。傾斜は緩いので簡単ではあるが、渋滞中で停滞している4尾根パーティ大勢の注目の的にもなっているし、こんな所で落ちるわけにも行かないので慎重に登った。



三段ハングを登る松村

10P 松村 クラックからスラブと変化のあるルート。クラックはフィストより少し幅が広い。スラブは、ハーケンに乗りながら登った。このスラブはフリーでも登れない気がする・・・。



スラブを登る小林

11P 目の前に城塞ハングが見えている。城塞ハングにたどり着くためにはチムニーを超えて行かなければならない。ザックを背負ったままチムニーを抜けることは困難である。チムニーに入らず上から超えていくことが一番簡単そうだが、ホールド、残置に乏しくてとりあえずトップの椿尾がザックを置いてチムニーの中をすり抜けながら城塞ハング下まで行くことにする。その後荷揚げでザックを引き上げる計画だった。しかし、城塞ハング取り付きの始点は4尾根パーティが使用しているため使えない。他に荷揚げできる所を探すが見当たらない。結局、2番目に登ってきた小林の力を借りて引き上げに成功した。小林の新型兵器であるCTのロールンロックが大活躍した。



チムニーを登る椿尾

12P 椿尾 ようやく最終ピッチまで来た。渋滞中の城塞ハング。待っていたらいつまで経っても登れないので強引に入れてもらう。

難しい箇所はなく快適だったと思う。

15:30 松村、小林を引き上げてクライミング終了。



終了点でなぜか切ない表情の小林。

終了点から北岳山頂まで約30分

16:00過ぎに山頂到着。健闘を讃あい、写真を撮ってすぐに下山する。御池小屋まで下る。明るいうちに下山したいのでダッシュでくだる。小林の後に続いて下るが付いていくのに必死だった。おかげさまで山頂から1時間半ほどで御池小屋まで下れた。晩はビールと配給された非常食に手をつける。行動食も全て食べてしまう。20頃就寝。ぐっすり眠れた。

8/24(月) 4:00 起床

朝食は椿尾のカフェオレを松村が残していたカステラ1切れを交換してもらおう。

5:30 出発。広河原までゆっくり歩いて2時間ほどで到着。

乗合タクシーに乗車し、芦原駐車場到着。お風呂に入りたいが近隣の温泉は10時オープンなのでとりあえず朝食を食べに街へ降りる。

時間を潰して、温泉に入り帰阪した。

北岳バットレス下部フランケ～D ガリー奥壁登攀、思っていたより難しく感じたが面白いルートであり満足した。また来るか、どうかはわからないが、次こそは1泊2日で帰れるように頑張りたいと思う。



北岳山頂にて



年末に同メンバーで登る予定の甲斐駒岳。ガンバ！！